

起草委員会における委員提出資料

※これらの資料は、第4回までの起草委員会において、議論にあたり、概念等を整理するために各委員から提出された資料を綴ったものです。

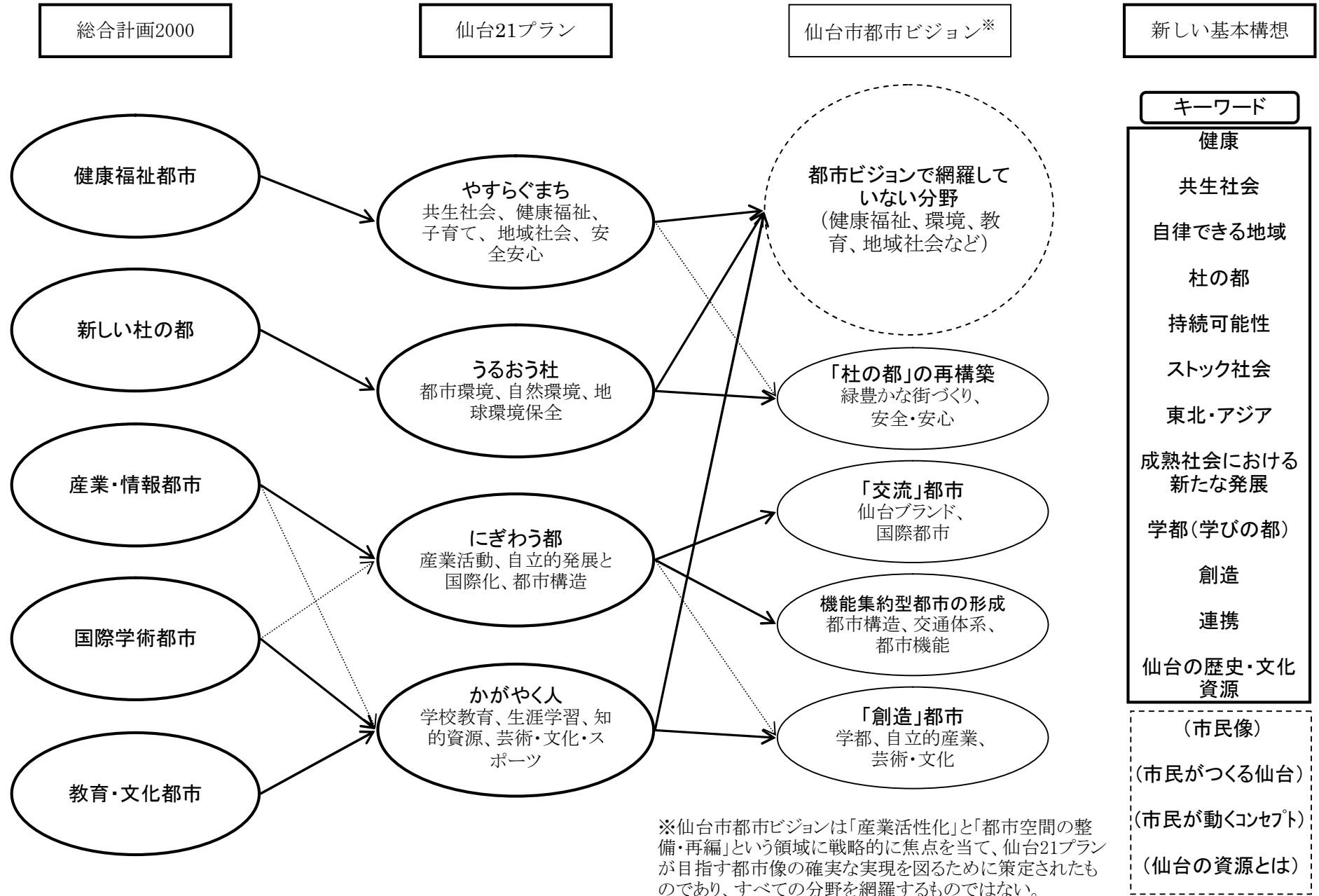
第3回起草委員会 論点ペーパー

1. 「行動する市民力」を引き出す新しい協働のあり方

2. 都市像の検討にあたって踏まえるべき時代の変化

- ・ 人口半減の世紀を迎える日本とそこでの東北地方の状況
- ・ 高齢社会に対応した技術・サービスの必要性、少子化社会における子供達が次世代を担う人材として育つ教育環境
- ・ 中国、インドなどのアジア諸国の著しい成長をいかに東北・仙台の成長に結びつけるか
- ・ 郊外地から都心への回帰による居住圏の縮小

都市像等の変遷と新しい基本構想におけるキーワード(案)



心地よい暮らしの中で、未来に恵みと希望を伝える街
(サステイナブル)

仙台に住まう誇り



創造 = 仙台固有の資源の発掘、融合、組合せにより新しい価値を生み出すこと

歴史・文化・伝統・自然と調和した
快適な都市生活

東北が持つ魅力の発信

健やかな暮らし
自然との共生
世界に生きる東北の力
未来を築く学びの都

Sendai
仙台

学都から生み出される
“知”

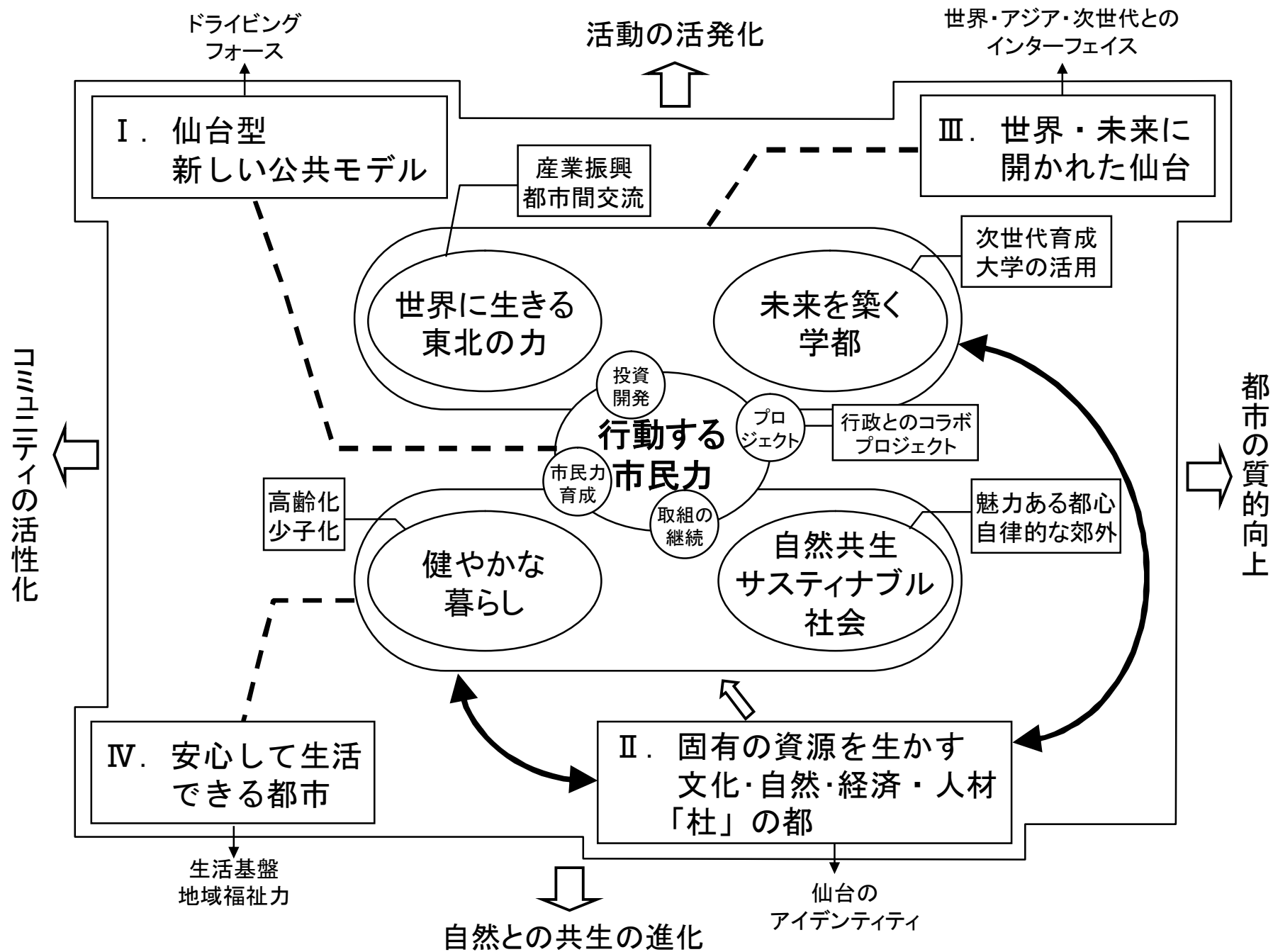
人類が直面する課題の解決への貢献

21世紀型新産業

(健康福祉産業、クリエイティブ産業)
(国内外の流通拠点として優れた立地特性)

成熟化する世界市場への新たな挑戦

世界とつながる東北・仙台



行動する市民力！

新しい価値を創造するまち

仙台の都市イメージ

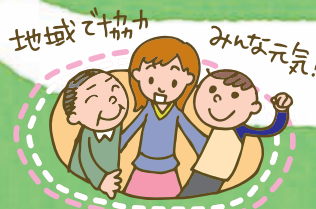
すべての人が 心身ともに健やかに 心安らかな暮らしができるまち

- 人間の尊厳を大切に、支えあひながら共に生きる
- 生涯を通じて心身共に健やかで自立した生活を送ることができ、地域を中心に互いに助け合いながら子育てをすることができる
- まちづくりの主体が、互いに知恵を出し合い共に連携・行動し、支え合う豊かな地域社会に暮らすことができる
- 災害による被害を限りなく小さく、万一の際もできるだけ早く元の生活に戻る備えに守られながら、安心して生活できる



地球環境を守り 身近な自然に親しむ暮らしが できるまち

- 豊かな緑、美しい空気、清らかな水など、あふれる自然に囲まれ、うるおいを感じて生活することができる
- 杜の都にふさわしい環境資源を共に創り上げ、住む人にとっても訪れる人にとっても、ゆとりと憩いとなる景観と自然環境の中に身を置くことができる
- かけがえのない地球の環境を守り伝える意思によって、その活動に誇りを持って参加することができる



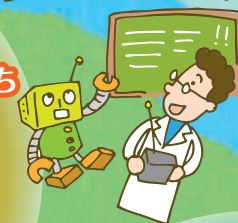
未来に恵みと希望を伝える仙台へ

東北全体の発展を 応援し先導して 世界とつながる暮らしができるまち

- 東北地方の支えを自覚しながら、交流の拠点となる都市機能を整え、世界の経済活動や人材を活用し、東北全体の発展につなげる役割を果たすことができる
- 安定した雇用のもとに、1人ひとりが能力と個性を生かして働くことができる
- 南北・東西の地下鉄を基軸とした交通体系と機能集約型の都市構造をもとに、便利で快適に暮らし、さまざまな活動に意欲的に取り組むことができる



世界に貢献する研究



世代を超えた学びあい



未来を担う世代を大切に育て 互いに学び合う 暮らしができるまち

- 次代を担う子どもたちが、豊かな教育環境の中で心身ともに健やかに育ち、未来を切り拓く力を身に付けることができる
- 仙台の歴史や伝統を大切にしつつ、一人一人が新しい文化を創り上げることができ、様々な芸術やスポーツを楽しむことができる
- 世界からの人材や情報を生かし、未来を創造する知的資源を積み上げながら、学術研究活動が盛んになり、その成果と活動を通じて得た多様な知恵と創意を市民全体で共有することができる
- 仙台独自の地域資源が生かされ、学びの場が多彩となり、まち全体があたかも1つの大きなミュージアムとなる都市で充実した時間を過ごすことができる



400年にわたる歴史と伝統、四季折々のイベントや文化活動などをもとに、市民が積極的に行動することで、さらに住みよい仙台が作られていく。

それが次の世代の街の土壌を、もっと豊かにするんだね。



注目されていない
仙台の魅力もまだまだたくさんある！

仙台独自の資源を
組み合わせることで、
新しい発見があるかも。

私たちに
ふさわしい
仙台の豊かさを
実現しよう